

# 経営学部 リフレクションペーパー

2013年度 <前期>

教員氏名  大内 秀二郎
担当授業科目名 (曜日・時限) 商学A (火曜5限) 流通システム論 I (水曜6限・金曜3限 [2クラス開講])
1. アンケート結果に対する総評 流通システム論 I (水曜6限クラス 8.5, 金曜3限クラス 8.4) については、概ね好評であったと理解している。自由記述欄においても「分かりやすい」という好意的なコメントが多く見られた。その一方で、金曜クラスについては、クラスの規模が大きすぎることや、一部受講者（特に教室の後方に着席している者）の私語に対する苦情も散見された。 商学Aは7.7と全科目平均をわずかながら下回る結果であり、授業の改善が求められていると言える。昨年度、講義内容を大きく改訂し、限られた講義回数の中に多くの内容を盛り込みすぎたそれまでの傾向を改めて、一つのシンプルな原理によって商業の様々な現象が説明できることを理解させることに注力した。昨年度の授業評価の結果からは、この改訂が奏功したと考えていたが、今年度に関しては、受講者に講義のねらいを十分に理解させることができず、「似たような話ばかり」、「同じ内容を繰り返し説明しているだけ」と受け取っていた受講者もいた。また、今年度の商学Aのクラスは例年以上に静粛な授業環境の保持に苦労したが、受講者のコメントの中にも、学生に対してもっと厳しい態度で接するべきという意見が見られた。
2. 授業を行う上で工夫した点, 良かった点 流通システム論 I については、例年通り、新聞記事や映像などの資料も交えながら、理論と実践の両面から流通の全体像を理解できるように心がけた。商学Aについては、昨年度の授業内容を踏襲し、「学生に質問を投げかける→学生に考えさせる→学生からの解答例をいくつか提示する→理論的な説明を展開する」というサイクルを授業の中にできるだけ採り入れた。流通システム論 I については狙い通り高い評価を得ることができたが、商学Aについては、授業評価の結果から判断する限り、当初意図していた通りの教育効果を上げることはできなかったと思われる。
3. 今後の改善点 商学Aの授業内容に関しては、次年度も基本的には授業内容を変更せず、次年度の授業評価の結果や受講者の成績から授業内容改訂の是非を判断したい。ただし、学習・教育目標や到達目標を今年度以上に明示的に受講者に伝え、「何を考え理解すべきか」を受講者自身が自覚できるような工夫を考えたい。さらに、私語をする学生に対しては、講義を遮ってでも注意を喚起する、それでも私語を止めない学生には退室を求める、などの厳正な態度で臨みたい。流通システム論 I については、クラス規模の適正化のため時間割編成上の工夫（可能であれば増コマも）を求めたい。